

千葉県環境審議会鳥獣部会の開催結果（概要）

- 1 開催日時 平成28年8月19日（金）
午後2時から午後2時55分
- 2 開催場所 千葉県森林会館 5階 第1会議室
千葉市中央区長洲 1-15-7
- 3 出席者
【委員】吉田正人委員（部会長）、羽山伸一委員、吉田松衛委員
並木康雄委員、勝山満委員、能城勝委員、飯沼喜市郎委員
【県】生活安全・有害鳥獣担当部長、自然保護課長他
- 4 議案
議案第1号 平成28年度におけるニホンジカ狩猟（案）について
議案第2号 笠森鳥獣保護区特別保護地区の指定（案）について
- 5 報告
第1号 第3次千葉県第二種特定鳥獣管理計画（ニホンジカ）に基づく平成28年度の事業実施方針（案）について
- 6 審議結果
議案第1、2号議案について、原案通り異議なく議決された。
- 7 主な質疑・意見

《議案第1号》

問 シカの生息数の推定方法は。（羽山委員）

答 糞粒調査の結果をもとに、糞粒区画法により推定しているが、県内の分布域を3地域に分けて3年かけて調査を実施しているため、その年度に調査を実施していない地域については、出生数捕獲数法により推定している。

問 平成28年度の最低捕獲数が5,326頭とあるが、どのように算出したか。（羽山委員）

答 平成28年度当初の推定生息数に増加率を掛けて算出している。

問 増加率が単純に計算すると34%となるが。（羽山委員）

答 本県における過去の研究から34%程度増加すると分かっているため、その数値を用いて計算している。

問 環境省ではベイズ推定で生息数を推定しているが、そちらの数値を採用しない理由はあるのか。(羽山委員)

答 推定方法については小委員会でも指摘を受けており、一部の市町村で過小推定の可能性があることについては県でも認識している。推定方法については、県内部で検討中である。

意 生息数はかなり過小推定だと思われる。また、特定計画の目標を達成するための努力量が徹底的に足りないと思われる。少なくとも県捕獲があまりにも少なすぎるため、もっと努力をすべきである。また、増加率の34%についても、根拠がどのようになっているのか、今後教えて欲しい。(羽山委員)

意 年間4400頭近く捕獲していて生息数が減少していないということは、推定生息数が少なすぎるのではないかと思う。複数手法の組合せについても、今後、改善する必要があると思います。(吉田部会長)

問 シカが生息している場所は鹿野山近くの君津市・富津市・鴨川市の山林かと思われる。この地域は人口が減少している地域であるが、観光の面から言うと、人口が減少してしまっても他地域から人が来てくれればいい。しかし、シカはヒルやダニをまき散らすと言われているのが問題である。

これからの紅葉の季節に、ヒルやダニがいるような山林に観光客は来ない。そのため、適正なシカの生息数にするために強力に捕獲を推し進めて欲しい。(飯沼委員)

答 市町村が中心となって捕獲をしている。市町村とは相談や調整をしながら捕獲圧をかけていきたいと考えている。

問 狩猟における捕獲数を制限しているようですが、野生動物は簡単に捕獲できるものではない。制限をしないでも問題はないのではないか。

また、千葉県に生息するシカは年2回出産すると言われている。(吉田委員)

答 捕獲頭数の制限については、第4次特定計画の策定時に考えていきたい。

《議案第2号》

意 是非、このとおり実行していただきたい。(飯沼委員)